



朝夷巡島記第八編
一

八遠
1278
36



哀歡苦樂俱夢也。覺而一堆之土。饅頭。孰不寔於終煙乎。生前富貴。食前方丈。身纏綾羅錦繡。却羅墮獄苦趣焉。生前貧賤。食藜藿。身纏襤褸。褐絺。給却生昇平樂國矣。無他善與不善而已矣。是以小說者流。克考其夢之味。諭勸懲之意者。以謂佳作可也。今及綴於此編。雖頗基其意。帝是不免。紙古人之糟粕之譏云爾。

昔安政四歲次丁巳仲冬發行

松亭迂叟題并書



朝夷巡島記第八編全五冊卷中總標目

卷 續集第十一

英雄議を鎌倉小婦が
義邦石戸小児と説く

壹 同 第十二

同氣相求む奸計の密話
理と説狩と止む婦人の實

卷 續集第十三

一頭の野猪確執と釀は
二歳の小犬隠川小漂ふ

貳 同 第十四

幻術と現ま山神の祠
危難と救ふ夢菴法師

卷 續集第十五

草菴の奇遇源家の族
道人無為の教へと説く

叁 同 第十六

邯鄲多め草菴の夢語
石戸の旅寓家族の歎

卷 續集第十七

主と索ね任ぶ隠川の上
奸計一々就る石戸の郷士

四 同 第十八

黄金小瀬を優婆塞が浅智
急小迫は佳人の嬾ひ

卷 續集第十九

身と損く節がまんと佳人の情
残毒忽地報り家族が最期

五 同 第二十

初て非と悟る懺悔物語
奸計再三到る程谷の驛

通計二十條總標目畢





附言

○毎編姓氏畧目有り。今この編は新出の者宮小四郎弘義全董次秋弘と弘義が渾家芥木修驗修道院酷殘の他ハみま前編小出さへりて別小畧目と掲げ出さざり

○此編ハ朝夷義秀判五等が離と討ち巴の尼小再會あり

○此編ハ趣向有り。義邦の本傳多端ありていづれ其場小至て竭さざり。既小楮數限ありて開ハ後篇小讓は

○此の編總て吉見冠者義邦の傳繁くして義秀が事蹟稍寡あけと看官遺憾多かん第九編小至てハ専ら朝夷の傳を奉ぐ。前後の猥雜作者の苦心宜々察し久し

金水再識



朝夷巡島記全傳第八編卷之一

東都

松亭金水編次

續輯第十一

英雄義多を鎌倉不歸は
義邦石戸小孩兒と没く

案了前齣再說獸六郎の義秀ふち對ハ主僕不慮ある危難ハあれと安泰不と顔と拜するとの嬉しさとらひハ懐捨探り。岩神ある判五が杖と把出さる不おさ。快這回命不任せ義邦ハ石戸の在へ恙なく送り不被延ある古叙ハこの年未人住まて其部の壞と權傾さる。是ハ入るべきと容るす。因て郷小住居する。宮小四郎の家居も廣く彼の修理と加ふるやとハ。まづ世に居る人ハ小よりて義邦ハ夫婦主従を必不入。日あらず番匠と促さる。まづその作ると始めると然るふその果ると候て安閑と居るさる。ねが夫より

越の岩神へ赴くと暇とて一不吉見ぬの宜とあり江二二廣光のこまきより岩神
 遣はるるといふ今二三日逗留して俱不彼処へ赴くべし。その帰らん比及まの修治中
 全く成就してとあるふよりて逗留しよ。その明の日匡媛の存の氣つきて悩
 む廣光指り標吉及びま下僕も彼處と物まきとて雄士にてかきつる
 物の要ふ立さるゝといと多う。こ不彼宮姓が渾家の芥木とてふる年四
 十と三ツ四ツ拓てあり氣ある女子あり。その初めより媛と勞つ。信実とて不
 飲侍ら。媛もまこ心と措をまのこと信らひて。彼らま不任せらる。然れがたの
 氣のつねありと存一情と去らず介抱のんとてまその甲斐不その夜安とて殊の
 てま男児とて産み。こ不於て冠者のあり。ま二日不飲ひ勇とこれとま
 のあり。彼芥木の老実ありのまままど昨今あてまど淵深の深と不らす。
 かきつる廣光の渾家浅良井のあんなんと冠者のままま。

残つ不の道理あり一日の途ま不恙とあり。七夜の儀ゆ入果すとて廣
 光共彼処と起り急ぎ岩神あり善と。その月末の恩と謝し如此の
 すと告げ浅良井母子とね飯らん。判五指め尼の毒ゆ。そのまを
 飲び浦殿の子孫のま吉見の刀称を。いと不ままかひ。運回志願の
 生ます。彼家再び栄え。あ代の礎あり。匡媛のあん終び然とて推して
 らるま。然のあれと産不殊。隔る介副の女子あり。物毎不不自由とて
 在りけり。まま急とて浅良井不。起りま。と甲斐とて世作ら。ま
 己の判五殿の四状と出り後念あり。如此の功績あり。肥直の列不擇とれ。ひま
 義人光仲ぬの。身の上のま。緯細やう不倍じ。うんとて成ひの終ひ。ま
 嗟嘆せ。不不返翰と傷つけ。然ると廣光浅良井。俱ま。出
 活と急と。三國の道とて杖と別ち。下僕に武義舟と志す。来り。ま。川の

邊良淵不宿。需。其。その宵。不。箇。様。との。とあり。て。不。不。と。ある。劉。若。の。極。八。め。不。禍。夫。より。後。の。一。件。の。向。不。ま。る。め。と。と。ひ。判。五。う。返。翰。と。出。せ。朝。夷。の。不。不。あり。て。その。表。書。と。熟。祝。い。て。愁。心。る。不。勢。不。不。不。不。得。主。の。教。と。ち。成。る。當。下。義。秀。首。と。擡。げ。ん。積。長。不。餘。慶。あ。る。様。不。若。不。餘。殃。あ。り。と。上。古。聖。の。金。言。あ。て。誰。と。も。よ。く。お。つ。と。あ。ら。う。吾。の。信。が。た。と。り。判。五。の。温。順。み。て。初。不。不。不。と。做。さ。び。人。の。為。不。伐。と。捨。て。一。点。志。を。惜。と。む。佛。の。作。若。と。独。り。勢。め。先。祖。と。祀。り。親。族。と。吊。ふ。その。家。頗。富。貴。又。も。必。と。謙。下。て。獲。れ。る。と。く。む。忠。直。の。性。あ。る。近。未。落。命。う。ち。流。と。終。不。一。家。の。終。不。至。る。も。乃。お。世。の。業。因。を。九。智。と。以。て。量。ぐ。と。い。ひ。と。て。を。嘆。く。歎。六。い。ま。そ。の。ま。と。ひ。を。膝。と。進。め。て。何。故。不。若。力。抄。ま。る。う。嘆。を。あ。稻。向。一。家。无。異。り。て。未。ん。春。の。媛。と。伴。る。ひ。又。物。を。後。舍。へ。ち。越。ん。と。宣。へ。り。何。奈。と。と。

の。心。と。研。る。面。と。熟。祝。え。然。り。の。理。る。我。後。念。と。世。後。是。と。陰。笑。へ。向。ふ。途。中。箇。様。と。あ。て。三。翁。が。今。盤。不。逢。二。什。と。交。り。その。叔。如。此。と。大。聖。堂。あ。の。輝。の。顛。未。具。不。語。り。て。开。け。你。達。が。若。林。と。起。り。せ。その。夜。の。う。ま。あ。り。と。と。因。て。我。今。の。所。より。出。羽。不。出。中。不。入。ん。と。す。の。岩。林。也。と。内。宣。に。よ。ら。ば。當。の。致。磨。五。平。と。や。ん。と。退。治。さ。る。と。母。と。憑。ら。る。巴。の。尼。が。安。不。不。不。不。と。依。ら。の。疎。の。掛。ま。る。と。と。て。歎。六。大。不。孩。さ。い。て。返。ら。ぬ。ま。あ。れ。と。の。城。今。一。夜。早。く。未。ら。ば。江。廣。光。あり。不。肖。さ。る。下。僕。の。あ。不。あ。と。い。勝。と。田。在。媛。あ。よ。び。判。五。の。不。禍。あ。せ。悔。と。ま。る。と。と。落。る。涙。不。眼。と。ま。る。と。更。不。右。左。の。初。め。の。候。聞。さ。る。猛。八。の。膝。と。進。を。腰。越。姓。より。信。説。不。不。越。の。岩。林。判。五。の。大。人。が。泰。山。ま。と。田。在。媛。と。か。の。女。兒。不。不。不。大。人。が。子。る。と。と。然。と。賊。不。過。と。と。心。中。と。と。と。推。量。れ。在。下。不。肖。さ。る。と。い。と。も。大。人。に。

随順の事初め不彼地へ移り山城の魔五平と号しんと筆手に掌の中ふあり。大
人が這面の兇難ふある。二朝のてふる。在下熟思惟を不北条力称大
人ヲ大功屢あると忌み嫉み痺不假託大人ノ難。心と快くせんとする。計策不
あつんとかの旅人が持りとる人隠語の収めんとす。則ち其状馬不あり
とて伴の状とさかひぬ人構不火焼してちあつぬふ云々有り。朝夷熟考て
這の和殿の事不差い。時並不内をりて。と云々喪をんと計す。の之
然いり。在下北條不曾て仇あり。怨むるある。初まを不心と謂
く。と計す。はあぐ。と云々得が。と云々猛不小勝と破とす。ちて大人ハ聰明
人ふ報え胸中の明らうある。曇らぬ。後不等。と云々物解りをせん。あ
まば。還つて眼の及たぬ。とあり。古人ハ賊不睫上の塵と云々。と云々遺り在
下等ハ遠所不在。更不官邊不拘。と云々。却て事情と云々。不精。

思ふ北條刀称父子の奸謀と云々。二朝のてふる。故不背量眾人不
起え後と己が隠謀の妨と云々。老人老を暗不點。と云々。心あり。故不多田
藏人の陸奥不大功あり。奸計と云々。罪をんと做け。と云々。其
罪信偽と決せ。不踏踏不大人が明智。忽地水源と云々。と云々。居
る。奸謀と云々の泡と云々。と云々。一辨故幕府の始。と云々。高切の
老后と喪。と云々。萌あま。と云々。送のあ。と云々。大家あり。と云々。一族
周て敵死す。と云々。容易と云々。故不ま。と云々。枝葉と云々。と云々。奮功の老臣と云々。
所謂三浦和田白田山安達土屋と云々。と云々。其の負い。と云々。と云々。今かの家不
後ふのあり。然る。と云々。その世移り。更り。と云々。空口不。と云々。と云々。故不
心とせ。と云々。土肥先次郎が輩。と云々。大人ハ則和田の三男。廷尉と云々。大人と云々。故
が。不。と云々。徳と云々。物不假託。と云々。枝葉と云々。と云々。と云々。

其の甘きとて。その此の廉直の。表ふまて。梓と為さば。始終その奸計。小ま
 ららと。稀るる。と。又て。朝夷。ち。然。以。和。殿。が。祇。満。究。め。せ。ぬ。り。お。お。不
 這。回。の。奸。計。の。あり。て。脱。ふ。ま。云。あり。の。向。不。の。ひ。ひ。え。一。如。く。本。街。の。あ。ま。の。
 守。護。目。代。の。好。成。の。と。と。は。僻。め。て。吾。と。強。め。手。柄。不。せん。と。て。競。ふ。ま。より。
 教。を。ま。と。争。ひ。て。罪。と。倍。の。と。蓋。あ。け。ま。ば。白。沢。我。と。出。羽。不。入。り。先。そ。れ
 より。執。不。ぬ。れ。岩。井。と。執。不。ぬ。れ。と。あ。の。後。会。の。動。静。の。知。る。く。尔。を。彼。沈。へ
 帰。らん。と。お。お。よ。う。て。の。所。へ。馬。の。鼻。と。向。ら。う。ま。こ。と。の。人。等。吾。不。ま。ま。
 後。会。の。と。ま。ま。と。思。ふ。ぬ。不。訴。へ。その。罪。り。ひ。解。く。御。あり。ま。ば。今。不。飯。事。ぬ
 る。と。う。ま。ご。の。理。あり。て。の。此。の。冤。不。墜。ん。の。後。何。と。在。ぬ。と。和
 殿。が。明。辨。せ。り。と。同。ひ。ら。く。を。猛。へ。左。右。と。願。ら。ひ。ぬ。ら。い。長。智。理。の
 の。心。と。忘。ま。そ。か。く。言。す。の。鳥。許。と。と。畢。竟。大。人。が。此。を。思。ふ。の。赤。心。より。して

今。新。尚。の。心。保。保。の。舎。も。人。ま。ま。の。と。あり。周。く。必。人。隨。之。と。い。へ。ん。と。扇。と
 扇。不。勝。と。と。ま。し。今。大。人。が。宣。ふ。如。く。直。下。の。岩。井。へ。赴。き。自。然。日。と。延
 き。必。よ。れ。と。あ。は。じ。在。下。が。あ。い。と。ま。う。お。不。後。会。の。飯。り。才。一。這。回。の。急
 務。と。い。の。か。の。檢。斷。の。二。事。と。い。力。と。勞。さ。す。と。一。朝。不。民。と。服。服。の。心。地。靜。謐。
 あ。の。條。と。言。上。て。ま。ま。磐。城。の。愛。妾。秘。事。と。の。人。が。如。世。の。と。ま。よ。う。と。淨。論。と
 あり。時。直。及。び。阿。武。隈。等。の。心。と。辱。さ。む。ふ。り。音。亦。又。傷。不。及。へ。る。と。お。お。れ
 ども。好。名。が。所。業。何。の。因。縁。を。と。知。す。汝。は。故。の。あり。氣。あ。ま。ば。時。直。不。れ
 阿。武。隈。不。ま。ま。一。個。の。生。て。と。お。ひ。う。と。被。ら。ま。勢。と。ま。一。個。と。ま。ま。と。威。不。服
 あり。二。個。と。斬。害。し。ぬ。ま。ば。乱。明。ら。む。の。及。と。失。ふ。と。ま。お。お。れ。不。於。て。ま。の。擔。の。事。
 兩。個。と。擲。め。は。く。お。お。れ。未。ぬ。ま。と。その。密。事。と。知。る。や。否。や。と。ま。ま。下。の。一。海。狂。不
 周。て。發。授。せ。し。ふ。あ。ら。う。と。い。渠。等。の。ま。ま。と。お。お。れ。所。あり。と。在。ら。ま。不。ま。ま。上



白澤越小
 猛八得夫を
 説く



獸六郎

うひて

あつた。執権さまは何と計ら。倘雅頼といひかけて、成と林示瀬まです
 不於てい。彼隠信の状とて。証明とあり。廣元善信二個のうち、好意
 事故より、済め。今、遅い。あさ、急りと、言解、不本、あらん。巴の尾、毒、あ
 のり、と、亦、その、賊、主、魔、五、平、と、撃、ん、と、その、後、あ、冬。但、本、月、賊、討、つ、の
 勢、憤、と、晴、さ、欲、く、在、下、等、より、彼、知、お、立、紙、え、大、人、お、代、り、を、賊、と、討、つ、
 大、人、お、ま、下、り、一、向、お、謙、金、之、飯、り、も、を、理、非、明、白、お、述、け、ま、義、秀、熟、攻、里、を、足
 下、の、公、論、究、め、を、理、あり。若、く、は、ま、が、是、より、を、謙、金、お、歸、ら、ん、と、賊、魔、五、平、と、撃
 て、い、私、の、備、あり、遅、く、も、妨、り、足、下、の、俱、お、謙、金、お、た、父、及、び、兄、等、も、對、面、と
 做、り、も、と、衆、淺、決、と、の、夜、の、明、し、を、彼、懸、城、の、郷、民、等、志、い、さ、る、と、ま、ま、の、
 謙、金、之、歸、ら、お、よ、び、か、く、多、人、救、と、件、と、て、その、ゆ、え、も、宣、ら、る、を、異、心、あ、つ、ま、ど
 疑、う、い、ま、ん、と、い、ま、各、が、好、意、の、不、と、所、不、終、と、忘、ま、や、す、他、日、志、と、い、ま、ら、ん

あ、夫、れ、ど、の、報、い、と、ま、す、と、但、你、們、お、憑、む、と、あり。ま、ま、此、地、へ、来、る、途、中、よ、う。
 舊、友、と、訪、ん、を、城、戸、四、郎、三、草、太、郎、五、兩、個、の、從、者、と、い、ま、願、て、武、將、の、不、遣
 る、が、彼、知、お、障、と、あ、り、ま、ま、此、の、地、へ、刻、り、著、げ、程、終、と、ら、ん、来、る、る、べ、我、不、在
 と、知、ら、る、と、進、退、と、失、ま、す。倘、か、の、兩、人、懸、城、へ、来、り、如、此、と、の、よ、う、と、言、つ、ま、
 行、方、を、索、む、ら、る、と、お、謙、金、へ、ま、ら、飯、れ、急、ぎ、兩、個、お、飯、ら、し、ま、し、ま、し、
 と、憑、む、と、い、ま、農、民、們、の、一、容、お、その、美、畏、と、い、ま、り。但、此、地、ま、ま、君、お、副、以、列
 さんと、快、く、す。謙、金、お、ま、ま、と、京、所、お、ま、ま、と、君、が、從、ま、著、者、お、ま、ま、と、送、り、奉、ら
 と、一、容、お、い、ひ、ら、と、推、註、め、志、い、ま、る、と、ま、ま、今、ま、ま、如、く、多、人、救、と、引、俱、を、
 歸、ら、ん、と、知、て、ら、る、度、の、處、お、ま、ま、と、す。その、後、の、固、く、辭、め、ら、る、然、い、あ、ま、ま、と、從
 者、の、うち、兩、個、お、脱、不、路、より、列、ま、その、所、の、甲、斐、る、死、難、人、の、ま、ま、と、の、
 生、捕、と、保、護、と、ま、ま、と、人、お、ま、ま、と、す。你、達、お、ま、ま、と、思、ふ、ま、ま、と、五、七、個、を、ま、ま、と、生、捕、と、

勞りて後、後金へ送り、然るに大慶より人とて、此の人々、占民、君が御為の事、
 とある。法て多人、救送りのせ、その身、負生捕、吾們定まらぬ、心も、
 思せ、おて、彼生捕、山便、うち、棄せ、秋合十二個、ま、副、後金へ、
 遣り、お、昔、田下、朝夷、馬、と、農、民、們、お、返、一、異、へ、別、ま、牛、口、の、所、と、
 うち、お、後、金、へ、赴、り、り、案、下、某、生、再、説、ら、お、彼、吉、見、冠、者、義、邦、食、邑、を、
 武、彦、岡、石、戸、の、莊、入、部、を、お、石、戸、左、衛、門、の、古、鐘、の、年、未、人、の、任、ぬ、故、に、部、
 格、子、も、順、き、倒、し、櫓、を、お、新、置、お、ひ、後、り、て、人、任、居、べき、容、お、あ、す、後、を、
 後、金、より、如、此、の、正、被、處、へ、御、教、書、の、下、り、ら、お、お、の、莊、官、村、長、を、お、
 評、議、し、後、の、修、理、を、加、ら、す、と、お、郷、土、を、お、宮、小、四、郎、弘、義、が、方、と、主、と、す、と、
 定、め、ら、る、と、お、義、邦、と、案、内、へ、お、彼、等、へ、招、後、を、お、り、お、主人、小、四、郎、を、
 要、の、と、お、り、て、近、郷、へ、お、り、由、り、て、家、お、あ、す、その、渾、家、芥、木、嫡、男、重、次、秋、弘、

ありの、出、高、へ、お、美、と、竭、し、て、答、應、す、先、年、安、達、景、益、ぬ、お、の、地、と、没、収、せ、
 ら、ま、う、り、地、頭、と、ら、り、の、あ、ら、ま、い、農、民、們、我、々、お、募、り、我、們、が、下、お、持、た、
 父、お、不、し、く、迷、惑、せ、ら、ま、這、回、君、の、下、向、お、り、人、心、大、お、定、ま、ら、る、在、下、等、お、於、て、お、
 満、足、せ、ら、父、弘、義、も、謹、し、て、君、が、入、部、と、納、金、を、お、と、後、金、を、お、救、護、が、疾、病、を、
 一、お、の、お、ら、ま、り、止、と、し、得、た、後、金、を、お、ち、お、れ、お、ひ、お、病、人、の、お、り、お、ぬ、ら、ん、
 今、お、於、て、沙、汰、お、あ、す、然、し、お、近、き、お、歸、郷、し、て、拜、禮、を、お、愿、ふ、け、ら、ま、ら、後、と、
 休、息、お、あり、且、お、鐘、の、修、理、の、お、物、の、要、お、ら、ら、ぬ、お、ら、在、下、君、の、命、と、受、て、父、
 お、換、り、右、も、左、も、計、ら、ひ、お、ら、ん、と、恭、ま、く、半、返、徒、の、御、と、祈、へ、お、般、心、勤、お、進、け、れ、
 ば、義、邦、も、志、の、厚、き、と、感、下、お、せ、ら、元、来、土、地、の、安、内、お、あ、す、万、の、お、ら、お、和、睦、
 御、計、ら、ひ、お、任、け、の、お、お、て、沼、林、を、御、お、り、お、り、小、四、郎、が、渾、家、の、芥、木、お、の、
 年、四、十、お、ま、り、二、つ、四、お、ま、り、ら、る、お、心、の、底、お、い、ら、お、ら、お、ら、と、老、実、お、る、容、お、い、お、置、援、を、

く痛り。今もわらう。いふ懐妊。お。や。程も。死は。勢。冷。毒。を。是。媛。の。血。の。産。を。う。い。と。常。云。ふ。い。ふ。案。下。う。う。産。小。女。兒。の。あ。う。と。吾。休。も。若。い。折。ふ。人。の。見。え。者。を。う。う。安。く。し。て。折。り。親。ある。と。い。ふ。い。は。し。是。も。ま。ま。若。祥。あ。ら。ま。今。も。若。の。氣。つ。た。ら。う。却。て。の。り。と。吾。倚。不。任。少。も。心。お。さ。あ。い。と。老。實。の。い。ひ。ら。ま。い。は。医。媛。の。笑。ま。て。不。測。の。縁。一。ふ。の。家。安。まり。住。居。と。修。理。さ。る。中。も。心。死。ま。と。か。け。付。る。不。況。を。あ。れ。此。お。あ。と。言。う。と。今。も。あ。ま。さ。産。の。氣。つ。つ。が。あ。何。せ。ん。親。代。の。家。隸。江。三。三。三。渾。家。浅。良。井。と。い。う。あ。い。も。若。の。と。う。く。ま。つ。て。信。實。ある。者。ふ。あ。る。れ。と。今。い。故。あり。て。城。の。玉。岩。井。と。い。う。所。ふ。あ。る。吾。們。の。住。居。も。あ。れ。ふ。二。三。三。三。と。い。ふ。と。小。近。へ。ん。若。あ。ま。ま。と。昨日。今日。を。且。も。達。乎。初。産。の。り。あ。て。何。せ。ん。親。も。此。不。當。を。不。ず。後。念。す。り。お。く。来。り。の。い。と。も。雄。士。あ。ん。を。且。若。の。と。う。く。あ。れ。若。

の。小。作。且。夫。だ。う。と。と。安。ま。い。は。若。い。人。此。が。初。生。を。痛。り。う。ば。ら。う。婦。ま。い。前。へ。ん。と。も。あ。れ。ま。と。辱。く。と。う。あ。り。お。ん。此。が。女。兒。の。名。ま。ま。と。い。ふ。不。快。む。と。あ。り。ら。ま。い。芥。木。の。あ。り。と。点。以。て。作。ま。あ。れ。及。ん。か。る。時。あ。り。由。縁。あ。れ。ん。と。い。ふ。ど。も。世。ふ。あ。る。指。の。人。情。の。棄。が。と。い。う。況。て。良。人。あ。る。小。四。郎。の。今。と。も。民。る。小。四。郎。と。い。ふ。郷。士。と。い。う。妻。の。性。も。あ。れ。夫。ふ。芥。木。と。容。あ。る。と。祖。父。の。賀。美。殿。の。ま。ま。と。い。ふ。若。者。義。公。が。二。男。を。生。む。と。然。ま。い。吉。見。の。村。若。殿。と。い。う。従。来。門。根。運。衣。と。い。ふ。後。念。殿。の。お。ん。若。も。他。ふ。異。あ。る。條。あ。る。と。い。う。若。次。郎。義。徳。の。才。義。光。ぬ。と。い。ふ。若。て。寛。の。罪。と。此。ふ。い。は。と。受。甲。賀。山。と。い。う。氏。族。と。い。う。對。死。と。い。う。あ。り。の。時。よ。り。して。彼。一。族。い。は。ま。干。隔。芳。漢。子。と。い。う。て。依。と。と。の。地。ふ。引。籠。り。射。田。田。と。い。う。耕。之。脱。小。三。代。と。送。り。ふ。ま。ま。と。い。う。小。四。郎。の。運。拵。と。い。う。て。後。念。殿。の。日。本。の。德。運。福。使。と。い。う。あ。り。の。威。勢。力。宇。宙。を。冠。す。と。い。う。と。その。氏。族。と。い。う。形。の。下。と。い。う。寒。脚。小。池。と。い。う。居。と。い。う。

常々慚悔めしもの。中々め何れも詮方なき。周て紛るる重次秋弘その性
ありあがり。その素性より人並に傲らんとも人恥心吾儕より直々念す。
他のより侍らぬ。いひさすてち笑ひ返りてその不同。病のこもる更
用ひがる縁あり吾們のそ味思ふるす。心と易く何れも果なま
分付る人。いと懇多る會秋に従来を朴の處女ある。その志と感ひま
もれた老おひたり。右左にて兩日追たる宵のこもる。が暴お腹の痛むを
媛い横ひき被せ。悩める容お村老と始め。二獸六標吉吉等。り。虎の乳の
美しと。之噪くんとを分木の来り。媛が腹をこ索りつら。返り催し疑ひ
あり。媛のこも来生せし。夫と推きて隠波女と人縁と侍らぬ。波に
呼んと小奴お分付。走らす程あり。老媪来りて腰と抱え。音草つの返り。
小腹へ摩り下る。媛の頻るお問ふ。その夜二更なる頃安そと存。涙ちん。つ

由男兒を産声ゆい。定るお揚る。ど。芥木のこも。懐さくる。よ。若君めて
侍ら。刀柄お自然と。と。若と。村老のこも。入て。心中の軟び。大う。さ。
け。媛と。儲。存。不。居。唯。備。る。る。血の。未。身。湯。漬。る。ど。進。む。お。祈。悵。
所。の。あ。て。空。を。あ。ぞ。清。く。く。ら。お。よ。う。て。人。の。大。お。安。堵。の。お。ひ。と。る。ま。三。三。
月。こ。ひ。か。し。お。芥。木。が。且。又。所。も。去。ら。び。いと。信。実。ある。す。り。の。う。ま。三。三。三。三。
流。け。ま。び。の。ふ。つ。け。何。と。さ。る。心。を。の。め。れ。お。あ。ら。び。江。の。三。三。の。ま。ま。等。法。を。
迎。ひ。込。ま。さ。る。所。は。且。一。日。も。早。く。紙。お。赴。を。浅。良。井。を。乃。て。来。ら。んと。村
老。お。の。こ。の。う。り。受。え。あ。と。獸。六。郎。と。諸。共。お。急。ぎ。と。と。え。お。涙。あ。の。村。老。と
標。吉。の。こ。の。勝。り。甲。斐。ある。新。人。を。物。の。要。め。い。ま。ま。と。と。芥。木。が。初。ま。を。後
実。ある。ふ。の家。の。婢。女。等。且。暮。お。心。と。用。ひ。孩。兒。の。こ。媛。が。如。い。さ。う。輝。の。胸。を
ま。び。吉。目。見。の。村。者。の。心。の。易。く。お。り。お。若。と。ま。お。あ。ふ。お。あ。を。人。の。軟。ふ。と。初。て

はあまぬ。年安達景盛の地と没収せしむ。其の地を義経の後胤に
は故よりその莊園と賜つらん。年来北條家へ出入る湯も治り政父子の
家臣も収めけり。彼も媚世も賄賂も皆をば奪ひけり。河内北條の心も
任せぬ。小折日ありてその後沙汰ありて其の地を義経の心とす。其の地を
せぬ。年甫暑寒いとも更なる。後念も減らして所もあらぬ。其の地を
秋もむそ。十のふるり。今も其の地を賜つて。吹捧も賜つて。其の地を
年重次十九あり。其の地を賜つて。遠祖の由緒ありて。石戸の莊とす。
ぬ。其の地を賜つて。其の地を賜つて。其の地を賜つて。其の地を賜つて。
評議けり。其の地を賜つて。其の地を賜つて。其の地を賜つて。其の地を賜つて。
敵もあらぬ。其の地を賜つて。其の地を賜つて。其の地を賜つて。其の地を賜つて。
とん。近曾依怙の沙汰も似たり。其の地を賜つて。其の地を賜つて。其の地を賜つて。其の地を賜つて。

時政も強ていさす。その地を賜つて。其の地を賜つて。其の地を賜つて。其の地を賜つて。
彼もまた年の望もつ。其の地を賜つて。其の地を賜つて。其の地を賜つて。其の地を賜つて。
折ふも。其の地を賜つて。其の地を賜つて。其の地を賜つて。其の地を賜つて。
贈つても。其の地を賜つて。其の地を賜つて。其の地を賜つて。其の地を賜つて。
あるも。其の地を賜つて。其の地を賜つて。其の地を賜つて。其の地を賜つて。
らず。其の地を賜つて。其の地を賜つて。其の地を賜つて。其の地を賜つて。
條殿も。其の地を賜つて。其の地を賜つて。其の地を賜つて。其の地を賜つて。
家も。其の地を賜つて。其の地を賜つて。其の地を賜つて。其の地を賜つて。
莊も。其の地を賜つて。其の地を賜つて。其の地を賜つて。其の地を賜つて。
誅計も。其の地を賜つて。其の地を賜つて。其の地を賜つて。其の地を賜つて。
旅寓も。其の地を賜つて。其の地を賜つて。其の地を賜つて。其の地を賜つて。

はる。執次の老も出てまづまうる。廣田お誘ひ直ぐ十人お控へる。執
次の雄士も出執権とて入罷り出て対面とありけり。此以てあつた
死居とて心お任せんと。无待ありあつた。平生お居る二室お面合せせしむ
はる。の。海。如。あ。あ。大慶ありまじり。小四郎とて心申ふる。款
五。思。思。心隔てま。一室お逢ふとあり原心くもは。倭倭
あ。数。額。著。老。併。ら。所。勞。を。和。と。召。せ。の。て。成。お。う。て。辱。し。何。方。ま
心。も。う。あ。ん。頭。安。内。に。置。ま。う。と。その。叮。嚮。の。法。道。で。頻。り。ふ。所。痛。が。執。次
雄。士。の。さ。び。き。い。と。後。大。小。合。状。を。此。方。来。り。も。と。座。敷。成。る。う。も。う。を。り。備。被
込。と。指。し。て。こ。も。主。人。の。居。る。お。は。る。頼。進。と。も。人。と。い。ふ。小。四。郎。の。座。と。席。め。も。早。く。佩
刀。を。披。き。て。あ。の。障。子。の。條。お。お。と。お。さ。り。く。席。の。外。お。も。と。う。て。程。と。成。ふ
時。政。の。上。坐。お。得。と。敷。て。あ。り。う。る。夫。と。う。う。う。に。り。下。り。て。外。さ。ん。し。と。う。と。と。

挙て相公所勞と兼り。その任はく坐し外あり。在下で心中還て心算し
とんとて時政の荒示と笑ひ他あり。和殿と吾の親し。中へ御さのさの
ま。坐。せ。小。四。郎。の。猶。性。を。致。ひ。寒。暖。と。伸。べ。所。勞。と。問。ひ。然。と。後。ひ。あ。り。依
豫。て。も。愿。ひ。つ。る。石。戸。の。莊。の。一。件。も。運。回。吉。見。殿。お。傍。り。ん。吾。と。父。子。の。情。狀。の
画。供。と。も。し。ゆ。ゆ。め。ぬ。あ。て。今。更。お。詮。方。あ。け。れ。ど。向。お。相。公。の。作。お。も。頼。お。は。是
と。対。ら。ひ。致。す。但。吾。執。権。の。職。お。在。る。御。あ。の。計。ら。ひ。て。心。も。く。と。下。と。い。へ。狼。心。お
宜。し。ゆ。と。も。半。の。揚。り。し。心。地。せ。し。ま。て。執。び。お。お。ひ。ゆ。め。ぬ。運。回。の。結。構。は。教
書。と。ひ。て。腰。さ。し。ゆ。ぬ。め。り。お。お。る。と。ぬ。然。れ。ど。執。権。相。公。定。めて。は。は。堅。慮
も。在。さん。静。ふ。と。と。候。お。如。し。と。二。回。の。噪。き。も。胸。と。狭。め。て。ゆ。ひ。う。い。は。し。海。の。あ。の
歎。き。も。う。ら。ふ。忍。び。を。然。る。に。後。食。へ。も。相。公。お。拜。福。し。心。の。底。と。寝。か。ん。
と。侍。こ。と。遠。く。と。未。り。て。ゆ。ら。の。後。と。り。お。針。ら。ひ。て。給。つ。る。や。ら。ん。の。條。と。若。し。と。う。

承りて。老耄の禁ふるまじくも欲せざるあり。初まらざる功也。あぬんとして
賞のこゝを負うる鳥游の白徒と相公の怒り不觸るべし。人なればふりて。賞も
受るべからぬ。如く愛蔵殿の杖多末全く由縁の多たふもあらず。唯是とて。愿
ふまであり。相公宜き愛憐ありて。莊園の石戸不限らず。すや。秋父の山中あり
と。元仍に。弘義が老後の眉目と。怒り。と。惨然と。涙け。時政
難と。徒然。和殿が。速懐理あり。故ふ。あ。地。い。と。吹。奉。ま。と。と。
既。再。三。不。及。り。う。と。故。右。幕。府。の。あ。ん。け。り。す。莊。園。の。と。あ。つ。た。て。い。は。士。二。統。不。評
議。あり。各。異。存。る。た。ふ。あ。わ。げ。場。々。ぬ。泣。あり。て。吾。口。も。ま。自由。表。録。く。勝。美。く
吉見。不。元。仍。に。あ。ぬ。ま。る。れ。も。吉見。の。冠。者。の。彼。強。者。の。義。秀。乃。と。骨。肉。の。如。く。奴
ち。て。後。と。り。か。家。不。禍。ひ。せん。の。渠。不。あ。り。周。て。運。回。も。陸。奥。之。比。怯。の。挙。動。あ
は。と。責。め。放。し。囚。人。の。如。く。方。寸。の。地。不。共。下。と。い。ひ。ひ。が。危。所。甚。也。其。の。勝。の。法

士。渠。不。負。い。肩。て。既。不。あ。く。定。め。さ。る。と。開。と。妨。ぐ。と。ま。ま。の。あ。り。て。ま。づ。キ。不。仕。す。
あ。れ。渠。が。此。不。祥。あ。ら。ぶ。勿。心。地。不。多。改。せ。ん。と。開。の。吾。方。寸。の。程。不。あ。り。と。声。以。依
ゆ。り。ひ。け。ま。と。小。四。郎。弘。義。肚。裡。不。た。く。執。権。が。心。と。推。膝。と。進。め。四。毛。と。う。ま。り。
つ。不。も。彼。人。傍。を。う。父。の。冤。不。陷。す。り。當。家。の。不。名。と。恨。め。由。り。實。不。相。公。定
つ。の。毫。釐。の。差。は。ひ。あ。らず。ま。く。不。領。と。充。り。の。執。の。基。も。げ。と。然。れ。と。渠。が。分
際。も。任。意。朝。夷。義。秀。が。家。と。喝。と。荷。擔。す。も。何。条。の。と。あ。る。と。猶。ま。と。怪
し。思。ふ。も。と。あ。ら。ぶ。遠。不。注。進。り。ま。す。と。相。公。が。あ。ん。あ。ら。大。馬。の。背。と。を。れ。も
在。下。い。さ。う。辱。せ。と。子。心。易。く。と。ま。ま。と。追。従。さ。る。奴。ら。成。り。時。政。に。類。不。笑。ふ。公
會。と。和。殿。が。好。ま。今。不。始。也。吾。の。の。の。義。内。也。平。生。不。と。目。ま。り。して。後。に
を。恨。む。ら。い。和。殿。の。心。中。ま。す。と。家。不。傍。ら。る。や。否。の。と。と。あ。る。と。ま。づ。い。つ。心。と
倚。と。と。核。密。と。若。べ。と。あ。れ。ど。駟。も。舌。不。及。と。聖。の。金。も。あ。り。と。ま。づ。慢。不

舌を動し雅し。と原が心と励まを。小四郎の言を敢て。つふふの数年言。彼ても
 入る外様を。釈ま物と宜ひ。つふふの。在下が心。初めと疑ひ。あへ
 聊理多た。あすね。ねど。在下。首。両刀。帯。争。う。え。と。食。人。と。騙。作。る。と
 扱。ち。て。た。開。い。人。も。と。依。う。た。け。と。相。公。が。初。と。の。号。人。と。ぬ。ま。と。款。息。の
 恨。め。氣。も。面。特。と。時。政。の。声。と。依。め。太。く。あ。然。心。と。初。の。ひ。の。よ。く。足
 下。の。心。の。帯。と。固。め。こ。せ。ん。為。あ。る。と。赤。心。の。勝。て。も。知。ま。う。ま。う。此。方。を。う。く。と
 膝。と。進。め。耳。突。出。し。閑。信。や。久。ま。り。て。お。て。小。四。郎。の。退。出。り。り。か。つ。て。その。お。青。丸
 銀。金。の。起。り。第。二。月。目。小。足。三。郎。石。戸。の。彼。小。者。ら。が。筐。媛。の。昨。日。の。甲。夜
 男。児。六。産。め。た。急。ぎ。冠。者。を。下。ふ。り。在。下。の。宮。小。四。郎。弘。義。お。て。い。る。送
 回。の。書。不。と。領。せ。ま。近。入。部。あ。る。と。御。教。書。さ。へ。お。ぬ。ま。路。次。あ。て。刀。杖。の
 来。歴。と。送。へ。な。る。若。者。あ。る。と。後。余。あ。る。松。族。小。病。者。の。ゆ。ひ。て。今。盤。小。送

と申あり頼まき。果上とある。不辭とが。て。彼。処。小。者。病。ひ。と。病。下。小。慮。の
 外。意。り。方。小。人。え。い。と。然。い。と。志。小。中。帰。ら。是。を。心。も。帰。宅。違。引。園。て
 不。東。あ。る。粉。董。次。秋。弘。と。り。名。代。と。入。部。と。近。之。来。じ。と。先。教。の。段。の。宥。恕。と
 情。の。依。滞。も。莊。園。へ。移。ら。せ。り。て。大。慶。至。極。殊。小。唯。今。兼。ま。奥。方。は。産
 安。く。若。君。生。り。あ。す。返。こ。の。他。然。び。祝。着。何。う。と。ま。ふ。送。入。と。恭。ま。く。述。け
 且。吉。見。の。冠。者。も。終。と。復。し。お。ひ。う。子。の。安。不。と。楊。り。過。日。入。部。あ。る。と。此
 石。戸。左。邊。の。倉。鉸。類。敗。ふ。う。く。修。理。と。加。る。不。と。足。下。を。七。お
 在。下。と。莊。官。共。の。ま。う。ま。と。ま。う。り。則。と。ま。ま。り。て。董。次。あ。ら。び。斧。木。が。修。理
 初。小。修。り。を。ま。ま。ず。殊。小。禪。家。あ。る。筐。媛。の。初。度。あ。り。て。後。者。と。り。の。と。ま。難。と
 ち。て。あ。ふ。つ。れ。絆。の。足。の。め。の。と。ま。と。且。暮。斧。木。が。老。実。小。痛。り。り。投。け。て。ま。う。の
 男。児。と。ま。ま。り。つ。都。て。と。ま。ま。り。足。下。の。賜。の。辱。と。述。け。且。小。四。郎。の。猶



種こまぐと詞てんと花はなと飾とさらむ。巡遊めぐらまり、渾家つじと形せ且た証者せいのあつ等ら分わ分りて珍めづ味み佳散かさんと。洞どう理りさそ。冠かん者しやのち不ふ持ぢ出でて。這こまへ鹿林しやくりんあり。この都みやこて。這こまへ。這こまへ。佳儀かぎと祝いわい。在下したが才さい志しあり。快かく一獻いつけんと酌しやくせあり。大慶たいけいあり。この邊へたてに海うみ不た遠とほく魚肉いさな八升はつしやうさ。拂底はきぞこも。で。十壽川じしゆがはの鯉こいとの。所の者ものハ賞あや罰ばつする。梅田うめだの牛蒡ごぼう岩いわ觀かん意いの。名物めいぶつ多おほく。程ほど近ぢかく。折をり。ふ。ま。ま。の。世よ浦うら雜ぞう喉のどの。糸いとこ。も。ゆ。へ。ど。是これ等らハ。も。人ひとの。便べん路ろふ。ま。ま。の。估かく。て。い。定さだめ。ら。む。で。冬ふゆ春はるハ。寺てら草くさ海うみ苔こけの。歩あり。も。澤しやく木きで。これ。の。他ほかハ。品ひん類るいあり。と。僅わずかく。誇ほふ。る。の。も。不ふ及おず。然しかれ。今いまより。この。所ところハ。不ふ居ぐ能のうと。ト。多おほく。あ。び。自みづか人ら燈とう篤あつく。法ほう方はうの。も。人ひとも。傍たもと来きたべ。く。ま。ま。人ひと傑たつとの。居ゐる。處ところハ。一いつ年ねんふ。て。邑むらと。做し。三さん年ねん以もて。都みやこと。あ。ず。ま。ま。し。佛ぶつへ。い。へ。ら。お。て。ど。繁さか華かの。地ちと。あ。り。人ひと君きみハ。後あと金殿こんでんの。連れん枝しと。い。と。大莊だいじやうの。五ご十じゆ箇か所しよハ。百ひやく箇か本ほんも。持もつ。人ひと也なり。此こゝを。在あり。も。不ふ祥しやうの。是こゝ非ひも。あり。今いまより。後あとハ。稍さうも。不ふ慈じ容ようあり。ま。ん。と。流ながり。不ふ挂かけて。う。ま。ぐ。い。と。佛ぶつま。

て。不ふ祝しゆと。い。へ。士し日じつ見けんの。討うち。者ものの。類るいと。報あやら。し。小四郎せうしやうぬ。と。大だい小せう巡めぐら。り。在あり。下した幸しやうと。言ことは。述じゆつあ。り。人ひと近ぢか曾そ諛う言ごん不ふ通とう。と。と。欽きんを。さ。る。面おもて持もつ。分ぶん木ぼくハ。傍たもとより。口くちと。副ふく討う者ものよ。こ。の。も。味あじと。い。ひ。も。妻よめが。良よき人ひと弘ひろ義ぎの。世よの。人ひと長なが速すみあり。ま。ま。の。心こゝろハ。畏おそむ。と。ま。ま。の。已おぼし。善ぜんと。い。ひ。も。不ふ限げんや。も。あ。り。賞あや唆さ。却かへて。不ふ矣やと。い。ひ。も。不ふ可かと。い。ふ。こ。の。い。と。ま。ま。の。一いつと。も。あ。り。も。佞ねい奸けんあり。在あり。の。候まちも。性しやうを。不ふ傳でんり。今いまより。右みぎに。河かの。ま。ま。と。會あい。刀たう称しやうの。指さし揮ゐと。い。ひ。も。と。い。ひ。も。此こゝに。從したがふ。と。あ。り。と。阿あり。縮ちぢら。白しろ徒たと。い。ひ。も。これ。の。心こゝろハ。為なる。か。り。如ごとく。烏くわ許か人ひとあり。ま。ま。然しかあ。り。ま。ま。と。い。ひ。も。笑わらへ。討う者ものハ。此こゝの。心こゝろハ。五ご言ごん持ぢの。難がた秘ひ辛しん苦くと。い。ひ。も。佛ぶつと。い。ひ。も。此こゝに。あ。り。も。思おも慮りは。と。い。ひ。も。小四郎せうしやうが。詞ことばと。む。お。お。め。ら。む。い。と。純まく。り。と。い。ひ。も。り。が。て。ほ。宜よろし。也なり。甜あまく。あ。り。ま。ま。主ぬし交まわ。り。し。く。碓うす釘かぎを。て。四よ方はう八はち方はうの。物もの極たぎ且かつハ。各それぞれに。鹿かの上の上の。波なみ沉しづみ。と。い。ひ。も。其その興おもしろも。尽ことごとぬ。し。小四郎せうしやう討う者ものあり。ま。ま。討うひ。高たかく。も。ま。ま。と。い。ひ。も。居ゐる。浦うら殿でんの。心こゝろハ。

昔司ちて其座のよのよの三夜五夜七夜の儀式殿のや、みんまは、ひん定みず
家の嫡流としらへど、さうたの景勢、在下の折在、強食、に勝、なる、世の
中、憤、り、斗、り、美、し、く、と、ひ、く、さ、し、ひ、ひ、が、夫、り、輝、の、出、来、て、後、の、弘、み、さ、う、り、
ひ、と、邊、去、を、み、な、珍、峨、の、時、は、う、て、の、莊、の、地、を、さ、う、り、と、昨、日、今、日、を、
後、さ、し、も、全、く、御、い、だ、し、よ、と、若、君、の、座、を、あ、つ、あ、つ、と、寂、々、と、視、し、し、
す、の、吾、們、の、也、若、君、の、成、長、の、後、の、一、方、の、大、將、と、さ、う、の、此、を、
儀、と、な、り、て、後、来、の、御、榮、と、祝、し、み、ひ、て、さ、う、さ、う、さ、う、さ、う、さ、う、
け、ま、り、成、ひ、ひ、懸、懸、流、流、馬、を、ど、め、る、人、を、因、り、あ、つ、あ、つ、
さ、ま、ら、し、若、君、の、内、証、生、の、儀、と、壽、と、す。列、卒、の、莊、園、の、農、民、們、と、近、催、な、す、
序、不、今、度、地、頭、吉、見、刀、秘、入、部、と、祝、し、若、君、の、延、生、と、壽、と、す。將、會、と、す、は、
觸、る、と、の、農、民、們、の、吉、福、と、作、ら、せ、う。と、の、め、い、な、し、よ、と、若、君、の、聖、安、時、

沉吟あり。并一段のりよ、下好まざる。今入部その回、あ、つ、
念と做さん。人、み、何、あ、つ、ん、は、何、あ、つ、の、壽、と、す。さ、う、
董次が傍より。武士の將、金、漁、捕、と、金、く、鹿、の、保、表、と、せ、す。馬、と、武、水、火、と、
の、爲、に、武、用、と、す。と、入、部、の、折、と、す。と、做、ら、せ、武、威、と、示、す。豆、
つ。在下、若、年、さ、う、と、の、父、の、物、依、み、兼、は、ま、家、系、全、く、界、外、不、あ、つ、
一世の程、も、ま、家、名、と、揚、る、と、な、ら、せ、と、折、ら、將、漁、と、す。と、の、數、を、
威、勢、あ、つ、。僅、四、五、個、の、列、卒、と、備、ひ、山、谿、と、表、る、故、鹿、二、頭、也、
も、あ、つ、ぬ、獲、物、と、す。その、心、を、慰、め、ら、せ、と、馬、を、來、り、新、廣、石、と、池、と、
らく、人、不、負、が、と、お、り、と、一、郷、の、人、と、り、列、卒、と、す。山、野、隈、を、
よ、た、興、あ、つ、の、刀、餘、餘、く、思、慮、あ、つ、不、月、不、依、ら、し、命、と、切、ら、
三三、廣、光、を、と、高、嶺、を、と、遊、あ、つ、と、渠、の、生、憎、越、へ、と、て、
程、遠、く、

如何不きまうと回答さ果敢とくくひるさるる葦次は頻り小こまきと執りま
 小四郎もこの等の小事いさう沈吟不及ぶべきところもあひふの保福すやくる存
 其の義邦元来暇湯也その気象も烈しく木もあはれ竹もあはれ人の泪も
 涙ふ論ぬ性まありけまば然とてそまふはぬ葦次秋弘大不款び父弘義の茶
 書と清て一御へ觸るる。且内月と申定めり。ち夫と指めその用具とせれ。小洞
 なる。葦老の今さう棄あくべきとてあはれわが標士口即不の。そのよしと清らひて幅
 あよび狩衣裳事且らぬ父芥木不憑と近郷不人と馳てその準備頻りこよ
 不匡媛の産所不ありてとあまの歯使や。武夜傍不人多れと。葦老不討ひまて
 低りこの人のいふときけは。その産まう和子の為不狩念とて寿ぐと。遠ま
 談しうねども脱不刀秘不有衣裳と惣多人が傍あはと思ふふりるる心ぞ
 今更不緯わらうとさきさきとてあはれはまとも脱不の思と胎孕しと陸夫の發

小羅り。刀柄の槍とて修羅五郎経任が牢獄不在り。妾の渠が側室とせん尚
 辞むとあ。獄不在り。吉人の狩者と戮せん。挑むと再三再四妾執思ふす。
 操と破りて良人と助の孝貞の及いふ不他と苟も妾が父九郎判を義經
 と人ふもあま。將の嬢が強盜の側室とあ。七の世と換るもの。辱の雪が
 多のそとま不従いまい。忽地良人の命と取らま。つふせはと夜の眼も合に敷
 死とかるゆか。神助佛力のと。心不れ不の昔父判官の念とあ。山城對る
 の毘沙門天近くあ。玉腰澤明神。ま。月未行念す。圓通寺の觀音菩薩。伏
 拜して真助とて。ふその責漸く緩ゆる。との柵の西南角。暫港のをこあ。れ。日毎
 十領の衣と流へと。秘願の誓恒とも。且く安ん心地ま。夫より月の明さ。ふ。ふ。盟
 とぬ。舟不換へかの暫港と潜り出ても。進退脱不答ま。て。終不死ぬ。ぐ。ひ。や
 彼方の山岸ふ。む。武士釣とや。と。盤と倚せ。る。此も秘る。教。ま。り。人。る。ぬ

義秀乃ぬとかくて賊徒を屠り竭。カ称日全とてゆきひけり。去下妾死する
 らべらる孩児も俱ふ死して何方の土とるる事とて圓通大士の功力も因て不測小
 助うつ月来少の障る人並ふ存落せ偏小佛林の加護もゆるらん事とて
 とのゆふまゝり。身入と怖と生類と救ひ必て報恩とる事とて然るたの事
 不待余とて多くの獸の命ととらん候一あひ居か日来小僧人合うらん事とて
 議へ曲て心ひ止まらん事とてせ練めらる。理あまふ義邦也。於小回差とてあま
 俯て居るひなり

村田

朝夷巡島記全傳第八編卷之一終



